

オーストラリア留学を 未来を担う第1歩に

「東京都教育委員会・次世代リーダー育成道場」の 高校生50人が来豪



各生徒たちに問い合わせな

2012年に開校した東京都教育委員会の「次世代リーダー育成道場」。将来の日本を支えていく人材を育成するために開校された同道場の第1期生150人のうち50人が1月、ブリスベンでの留学のため来豪した。

東京都教育委員会は現在、グローバル化が進む現代社会を舞台に活躍できる、日本や東京の未来を担う次世代のリーダーを育成することを目的にした、特別な教育プログラムを推し進めている。都が2012年に開校した「次世代リーダー育成道場」という都立高校に通う生徒に向けたプログラムで、優秀な学生を選抜し、その費用を都が助成するというものだ。

各校から選抜された生徒たちは、日本文化や伝統についての理解を深めるために能を観たり、日本の歴史を改めて学びながら、日本を代表する各界のリーダーたちの講義の受講、先端分野の施設見学、そして海外研修や留学などの体験を通して、広い視野や多様な文化への理解を深めていく。

今年1月、記念すべき第1期生となる50人の生徒たちが、オーストラリアでの長期留学を経験するため、ブリスベンに訪れた。生徒たちは、まずはホームステイをしながらミッチャルトン州立高校で3週間の語学研修を体験した。

研修期間中には、ブリスベン日本クラブ会長でオーストラリア日本野生動物保護教育財団理事長、日本獣医生命科学大学客員教授を務める水野哲男氏の講義も行われた。「聞いていて、心臓がドキドキして、わくわくしてきた」と感想を語る生徒もいるほど、実際に日本を離れ生活を送り始めた生徒たちにとって、よい刺激となったようだ。

そして1月24日、在ブリスベン日本国総領事館の藤田順三総領事の講義が行われた。

総領事からのメッセージ

藤田順三総領事はまず、会場に到着すると「皆さんと同じ目線で話したい」と、用意してあったスピーチ台を動かして普通のイスに着席し、にこやかな親しみやすい雰囲気で講義を開始した。50人中の37人が女子生徒だと気付くと「日本の女性はたくましく優秀で世界中でたいへん活躍しています。特に私は国連での仕事が長く、国連で日本女



「Reintegration. たくましく、相手の文化に溶け込んでみましょう」と述べる藤田順三総領事

性が活躍する姿をたくさん見てきました。皆さんもぜひグローバルに活躍してください」と、声をかけた。

そして現代では、当事者意識を持つことが大切な「オーナーシップ」、説明責任の「アカウンタビリティー」、組織や決定までのさまざまな過程の透明化「トランスペラレンシィ」が大切になっていることを説いた。

また日本社会では、親切で丁寧な配慮が行き届いている反面、個人の自立意識や自己責任は重要視されにくく、一方、海外では自由な環境の中で自立して解決していくなければいけない場面が多いと、総領事。

そして、自立して行動するためには判断基準となる常識が必要となるので、常識を身に着けるためにはたくさんの本を読むことが大切であると生徒たちに語りかけた。「自立、そして常識。この2つをこれから心に留めて生活してみてください」。

また、「何か質問はありますか?」と藤田総領事が生徒たちに聞くと、生徒たちは一斉に挙手。「複数の言語を習得するための秘訣は?」「日本とは異なる他国の常識とは?」「国連で働くための専門分野を身に着けるには?」「国際交流と異文化理解の難しさについてどう思うか?」など、日ごろの問題意識の高さをうかがわせる質問が次々に出た。

「外交官を志した理由は?」という問いには「若いころは外国でタダで勉強させてもらえるなんていいなと思っただけ。高い志を持っていたわけではありませんでしたよ」と総領事が気さくに答える場面もあった。率直な対話を大切にする総領事と真剣なまなざしの生徒たちとの質疑応答は、静かな熱を持ちながら予定時間を超えて続いた。

オーストラリアは街がきれい

「次世代リーダー育成道場」は昨年5月から募集が始まり、5~6月に学校内や教育委員会での面接や作文による選抜試験が行われてきた。

その時の心境を生徒たちに質問すると「行きたいという気

印南友香子さん
(都立調布南高校3年)

「将来は世界に出て異文化の中で働きたいです。同世代の友人たちは、失敗が怖くて行動を起こせない人が多いように思います。でも失敗から学ぶことが多い。『もうちょっと楽に考えてやってみたらいいのに』と、皆ができるようになるきっかけを作つてあけられるような人になりたいと思っています」



持ちが強かったので、高校受験の時よりも緊張した」と答える生徒が多数。そして、その約1ヵ月後の合格発表で合格を知った時には「嬉しくて学校中を走り回っていました!」という生徒もいた。

もともと留学してみたかったという生徒も多く「留学してみたいと親に相談してもダメだと言われていたんですが、今回のように東京都教育委員会によるものなら信頼できるので、これなら行ってもいいと送り出してくれました」という生徒や、「不合格だったとしても自費留学するつもりでした」という生徒もいた。

オーストラリアの印象について聞くと「暑い」「緑が多い」「道が広い」「街がきれい」「人があまりいない」「リラックスした雰囲

気」「オーストラリアの保有率が高い」「子供たちが元気付くかという質問が良い」「サービスがいい」などと答えた。

この50人の生徒は、オーストラリアの生活を経験して、日本、そして世界で活躍する人材を期待したい。



左から、総領事の講義後にインタビューに協力してくれた安孫子千晶さん(都立千早高校2年)、印南友香子さん(都立調布南高校3年)、新造真人さん(都立西高校3年)、兼子司さん(都立科学技術系中等教育学校4年)、鈴木大雅さん(都立八王子東高校1年)

受け入れサポート団体NPO「AIU」の三井眞人氏からのメッセージ

AIU-Australian Institute of International Understanding代表理事、JFIE(日本国際交流振興会/Japan Foundation for International Exchange) 豪州支部代表

東京都教育委員会次世代リーダー育成道場企画は、教育行政では過去に類を見ない企画だと思います。私立学校の中には類似の留学をしている学校もありますが、それらの私立学校で留学をする生徒の多くは中学入学期から留学を希望しています。いわば留学することが目的の私立学校に入学してきた生徒が大半です。もちろん早い段階から留学という目的を持ち、その目的を達成しやすい学校を選択することはただ、皆が皆、早い段階から留学を意識するわけではありません。高橋は留学や経験を重ねた後に一念発起し、将来の目標も踏まえた上でしっかり留学を希望する生徒もいると思います。その意味で、幅広くすべての戸を開いた今回の東京都教育委員会次世代リーダー育成道場プロトコルで活躍するリーダー育成道場です。今回参加した生徒の多くは、尖ったリーダーが多数輩出される信じて止みません。私どものNPOと実績を生かし、このプログラムを全面的にサポートしています。